

人権啓発アニメーション

ひまわりのよこに

●上映時間 42分



■企画：北九州市 北九州市教育委員会 北九州市人権問題啓発推進協議会
■製作：松竹京都映画株式会社 □アニメ制作協力：アニメーション画房わ組
■プロデューサー：野村芳樹 □声の出演：許 綾香 / 中 博史ほか
■監督：福富 博 □脚本：松下隆一 □音楽監修：周防義和
○16ミリ版/ビデオ版 (16ミリ、ビデオの字幕入りもあります)

健康で生きがいを持って暮らすことのできる社会の実現を

北九州市人権啓発映画制作委員長 柿嶋 讓

太陽を浴びて輝くひまわりを見つめながら沙也香は、「人の生命の重さはみんな同じなんだということを…そしてつらくても悲しくてもそれを癒し、支え合い、夢を持って生きていくことの素晴らしさを教えてくれたのは友であり、家族だということを」と述懐します。

リストラによる転職・慣れぬ仕事の重圧から心の病にかかる父。沙也香の家族は、多くの困難を周りの人の助けも受けながら乗り越えていきます。「お金さえあれば幸せなんだろう。信じ合い、支え合う人が周りにいること…それが本当の幸せというものじゃないか」梶谷医師は、そう語ります。「幸せに生きるとは…」その答えは、一人ひとりが探し求めなければならない問いでしょう。

職場・学校・家庭・地域社会…様々な場でストレスの多い現代社会では、誰もが心の病にかかる可能性があります。WHO（世界保健機関）の憲章には、健康とは「完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病または病弱の存在しないことではない」とうたっています。心の健康や人間らしく生きることも含めて健康と捉え、それが基本的人権であると示しているのです。

健康で生きがいを持って暮らすことのできる社会の実現は、国や社会や多くの人々の協力があってこそ実現するのではないのでしょうか。

●16mm価格/¥278,250円(税込)

※字幕入りもあります

●ビデオ価格/一般用¥84,000円(税込) 学校用¥47,250(税込)

ポイント

- ・ 心の中の格差
- ・ 自殺に対する偏見
- ・ 夢を持って生きる
- ・ 心の病に対する正しい理解
- ・ 支えあい

制作のねらい

私達はみんな夢や生きがいを持って生活したいと考えています。しかし、今の時代は、社会構造の急激な変化に伴う様々な格差の発生により、努力しても将来の展望が開けないと感じることもあるのではないのでしょうか。

この映画の主人公・沙也香の家族は、父・洋平のリストラ、転職、心の病と困難に直面しながらも、周囲の支えや理解、そして何よりも家族がお互いの気持ちをしっかり受け止め合うことにより、絆を深め困難を乗り越えています。

この作品を通して、人と人がつながり合うこと、また支えあうことが、みんなの夢や生きがい、幸せにつながることに気づききっかけにいただければ幸いです。

あなたも、ラストシーンの太陽を浴びて輝くひまわりを見ながら、本当の幸せとは何かを考えてみませんか。

あらすじ

小学六年生の川崎沙也香の父・洋平は、リストラにより転職をせざるをえなくなった。沙也香は、転校先の学校で同じクラスの光本真美と仲良くなるが、真美の父・孝三は洋平の会社の社長だった。洋平の立場を気にする沙也香の母・裕子に沙也香は反発を覚えるが、境遇の違いを感じて、何となく距離を感じるようになる。

一方、洋平は畑違いの仕事在必死にこなそうとするがうまくいかず、生来の生真面目さもあり日に日に落ち込んでゆく。そしてある日、洋平は踏み切りを乗り越えて自殺を図ろうとする。間一髪のところ洋平を救ったのは、医師の梶谷だった。梶谷は洋平をうつ病とみて、十分な休暇をとって専門医にかかることを勧める。だが裕子は夫がうつ病だと信じられなかった。また洋平も、会社には迷惑をかけられないと、梶谷の勧めを受け入れようとはしなかった。

洋平の自殺未遂は沙也香のクラスでも噂になり、偏見の眼にさらされる。そんな沙也香をかばってくれたのは真美だった。わだかまりの解けた二人は、梶谷のもとへ行き、洋平を助けてほしいと訴える。

梶谷は、孝三の自宅を訪ね、洋平が十分な治療を受けられるように孝三に懇願するが、洋平だけを特別扱いできないと断られる。だが梶谷は諦めず、裕子とともに会社に出向き、孝三や洋平の上司に、自分の辛い過去を話して説得を続ける。その過去とは、息子を過労による自殺で失っていたことだった。

命の大切さを切実に訴える梶谷の姿に孝三が理解を示し、洋平は通院治療しながら働ける職場に異動となる。周囲の理解を得て日に日に元気を取り戻していく洋平だったが、そのうち休日になると決まってどこかへ出かけるようになる。一体何をしているのか家族はみんな知れたがるが、洋平は多くを語らなかった。心配した沙也香が梶谷に相談すると、意外にも梶谷は洋平の秘密を知っていたのだった。それは……。



●川崎洋平（42才）



●川崎沙也香（11才）



●川崎大樹（8才）



●川崎裕子（38才）



●光本佳織（35才）



●光本真美（11才）



●光本孝三（36才）



●梶谷五郎（62才）



●杉本哲二（36才）

●お買い上げは…

 東映株式会社 教育映像部

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631
関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区八丁堀16-10 〒730-0013 ☎082-511-2066
高松出張所 高松市本町11-7 〒760-0032 ☎087-851-3766
福岡出張所 福岡市博多区中州4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

北辰映像株式会社